



沼志野市菊田水鳥公園

## ■ トランプワールド始動 事務局長 田代 周

第2次米国トランプ政権がスタートして早速数多くの大統領令を發布しています。自国第一主義での(強いて言わせてもらえば)勝手なこの動きは世界に大きな影響を及ぼします。世界のリーダーとしての意識の欠如でしょうか。かつては世界の警察を担っていたという認識はすでになく、環境問題など地球規模で取り組むべき課題にも中心的な立場をとることなく、むしろ目を背けるような状況です。



▶ 温暖化を抑止するパリ協定には第1次トランプ政権時に離脱し、バイデン政権で復帰、そしてまた第2次政権で離脱と、目まぐるしい変化を示しています。離脱するだけではなく「掘って掘って掘りまくれ！」の掛け声はなにをか言わんやです。

2026年にはEUで国境炭素税が導入されます。これは、EUが自国内での炭素排出削減を進める一方で、他国からの炭素集約型製品の輸入に一定の規制をかけるもので、パリ協定に未加盟ということは、それなりの課税を免れないことになるでしょう。トランプ氏得意の「関税」という武器と真っ向からぶつかり合ってしまうのではないのでしょうか。

▶ この「関税」という武器は相手国への強力な脅しとして効果があるようです。大統領令の一つ「不法移民の強制送還」は早速実施されていますが、南米コロンビアは「移民輸送の米軍機の国内着陸を認めない！」と表明。すると米国は「関税up！」とやり返して、結局コロンビア政府は移民送還を認めざるを得なくなりました。

▶ さらに一方的な発言も気になるのですが、「メキシコ湾」は「アメリカ湾」と呼び、カナダは米国51番目の州にとか、グリーンランドの買収表明など、これらの発言がすぐに具体的な行動に移されていくのではないかと懸念されます。

日本版ではまだ変わっていないが米国の Google Map ではすでに「アメリカ湾」になっているとか。



図はどこでも方位図法 <https://maps.ontarget.cc/azmap/> で北極の真上から見たものです。米国とロシアに挟まれる形でグリーンランドが位置しています。トランプ氏は戦略的にみると確かに「グリーンランドをほしい」と思うでしょう。かつて米ソ冷戦の時代にも同様な考えがあったとのこと。

▶ トランプ大統領は今後4年間で78兆円にもおよぶ史上最大規模のAI事業「スターゲートプロジェクト」を立ち上げると発表。ソフトバンクの孫正義会長もこれに一役買って出ることになっています。

大統領選の時から『X』のイーロン・マスク氏が金の力でトランプ氏を応援していましたが、トランプ氏はやはりビジネスマン。一方的な力だけではビジネスは進展しないでしょう。相手を慮る気持ちを大切にことを進めてほしいところです。

## ■ Online 会合報告 (2025. 01. 28)

江戸時代には町人文化がおおきく発展しました。町人文化はともすると時の権力を揶揄したり批判したりするものとなりがちで、幕府としてはほどほどに



目こぼしをしていた時代もあり、強い規制を発した時代もありました。江戸時代中期、庶民の道徳を高めるために「石門心学」が流行りました。小紙先月号の「気心」の欄で述べていますが、江戸時代の戯作者、山東京伝はこの石門心学を学び「心学早染草」を著したといわれています。「寛政の改革」という規制の厳しい時代に本人にしてみると“不本意”な著作だったのではないのでしょうか。

会合の内容は <http://jvc-senior.com/20250128online.pdf> を参照。

## ■ ディープシークの衝撃

トランプ大統領肝いりのプロジェクト「スターゲート」開発に78兆円の発表があった直後に、中国の「深度求索」(DeepSeek)が開発したAI技術が大きく世界の話題となりました。米国のCHAT-GPTにも負けない機能を持ちながら開発費がなんと9億円ほどで、米国 META(旧 Facebook)のAIに比べて開発コストは1/10程度であるとのこと、素人目に見てもこの差は非常に大きいと感じます。

現在中国にはハイテク部品の輸出や技術移転に多くの制約がかけられています。このニュースがあった直後に米国GPU開発メーカー「Nvidia社」の株価が大きく値下がりしたとのニュースが流れました。米国のスターゲートプロジェクトではさらに強力なGPU開発に多額の投資がなされるようですが、高額なハイテク部品など使わずとも新しい技術が生み出せるなら、そのような会社の株価が下がってしまうのは当然かもしれません。

一方で、生成AIでコンピュータと人間が自由に会話を交わすためにはそれこそ超膨大なデータを覚えこませなければなりません。そのデータはどこから持っているのか、著作権が守られているのかなど、疑問の声も上がっているようです。

いずれにせよ、中国の若い頭脳が結集して開発にあたっているのでしょう。彼らの能力には敬服するばかりで、中国におけるAI技術の応用は日本よりはるかに進んでるようです。政治体制の壁がない世の中になれば世界はもっと豊になれるのにね。



## ■ 2025春闘

「失われた30年」、などと言われ物価も賃金も長らく横ばいの状況が続き、結果的に諸外国に比べて日本の物価は安いということで、多くのインバウンド客で日本各地がにぎわっているのは皮肉な現象ということになるのでしょうか。

ようやく賃金が毎年少しづつながら上昇するようになりましたが、物価急騰で庶民の生活環境は相変わらずというところです。

1月22日に連合と経団連とのトップ会談が行われて双方で現状確認が行われました。

<https://www.nhk.or.jp/shutoken/articles/101/018/55/> 参照

その中で経団連側から「中小企業の従業員や非正規雇用の人たちの賃上げが重要」であるとの話があり、連合芳野会長からは「それが日本経済の隅々まで波及しなければならぬ」と返しています。

昨年大手企業では満額回答が示されたところが多かったように記憶していますが、下請けなどの中小企業では価格転嫁もできずに賃上げもままならないところも多かったのではないのでしょうか。

連合の今年の目標は中小企業で6%upを掲げていますが、連合自身としてこれが高い目標であることは認識しているようです。

次のサイトは1月23日、連合の記者会見の内容です。 <https://www.ituc-rengo.or.jp/info/rengotv/kaiken/20250123.html>

大企業が利益を出す一方、中小企業が苦労している現状を打破するには、企業努力の必要性はもちろんであるが、税制や支援策などの制度的な改革が必要となります。地方に人気のある石破首相と地域社会をよく知る連合との「政労会談」開催への期待も述べられています。

格差の拡大は世の中の不安を増長させます。

1月24日には第217回国会が始まりました。石破首相の「楽しい日本」という言葉には具体的な中身が見えないなどという異見もありますが、誰もが安心して楽しく暮らせる世の中を目指して「政・労・使」頑張ってもらいたいと思います。



## ■ 事務局から

・ 今年2月2日(日)が節分。今年の恵方は西南西です。そちらを向いて恵方巻をほおぼると良いことがあるようですが、今年は具材の値上がりで恵方巻が随分と値上がりする予定とか。この日は「蕎麦打ち会」を実施します。恵方を向いて蕎麦をズルリ!、良いことがきっとあるでしょう。

4月5日には第8回シニアの料理教室が開催されます。

皆様奮ってご参加ください。 <http://jvc-senior.com/20250405cooking.pdf> 参照

事務局長 田代 周